

寺報

平成30年(2018)陽春号第128号(1)

発行 福島市田沢字寺前18
長秀院・仲興寺

T E L 024(548)1240

F A X 同上

ホームページ <http://www.choshuin.jp/>

e-mail info@choshuin.jp/

編集責任 渡辺 祥文

黄桜開花 四月十一日



秀憲座元、永平寺上山

三月十四日

福島を出立

三月十五日

大本山永平寺安下処

地藏院 到着

三月十七日早朝

大本山永平寺上山



撮影 丹治 勤氏

出立挨拶のお拝 撮影／鈴木 祥子 氏



出立 撮影／丹治 勤 氏



秀憲座元、 大本山永平寺の修行へ

渡辺 祥文

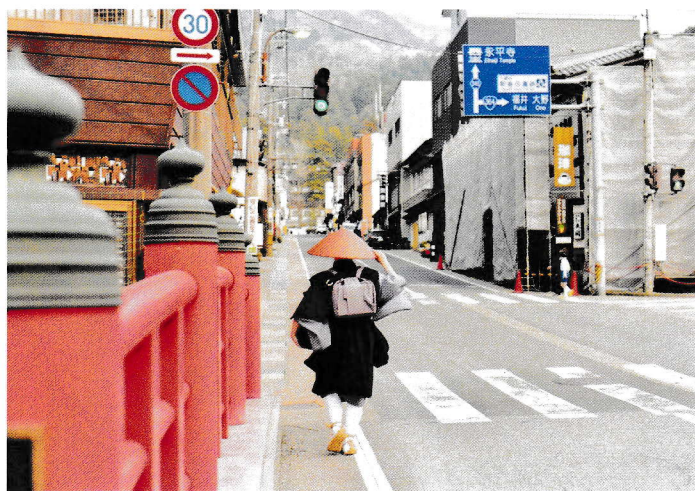
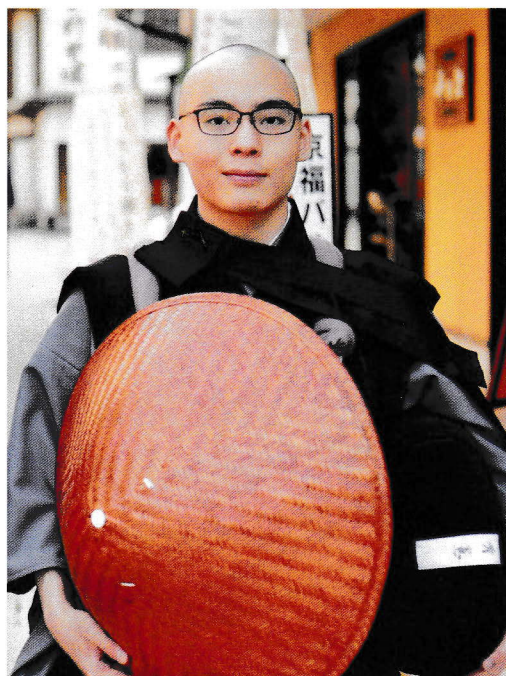
今般、お陰様で弟子秀憲が、大本山永平寺へ、修行のため出立いたしました。

三月十四日、出立のお話をしたところ有縁の皆様が集ってください、お見送りを頂きました。師匠としてわらじのひもを結んでやり、出発させました。幸いにも同じ福島市山口常円寺徒弟の阿部木童師も一緒に上山となり、福島駅から二人で旅立っていきました。また重ねて有難いことに、秀憲の法幢師である山口安洞院住職横山俊顕師が本山まで付き添ってくださいました。長老として（弟子として）、また隣寺のお弟子さんの本山上山ということで、親代わりの引率までしていただき只々有難い限りでした。

その後門前に一泊し、三月十五日永平寺安下処となる門脇の地藏院へ入り、仕度を整え、心得えを頂き、二日間を過ごし、三月十七日早朝、入山を請う木版を三打し山門

安下処地藏院へ入る前の門前にて 三月十五日

撮影／横山俊顕師



の前に立ちました。上山修行にその日より入りました。

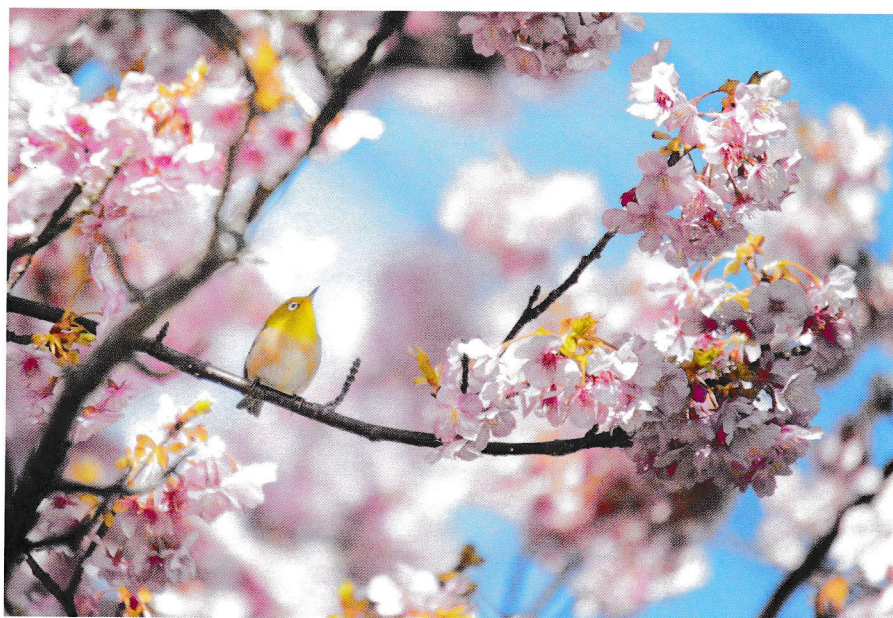
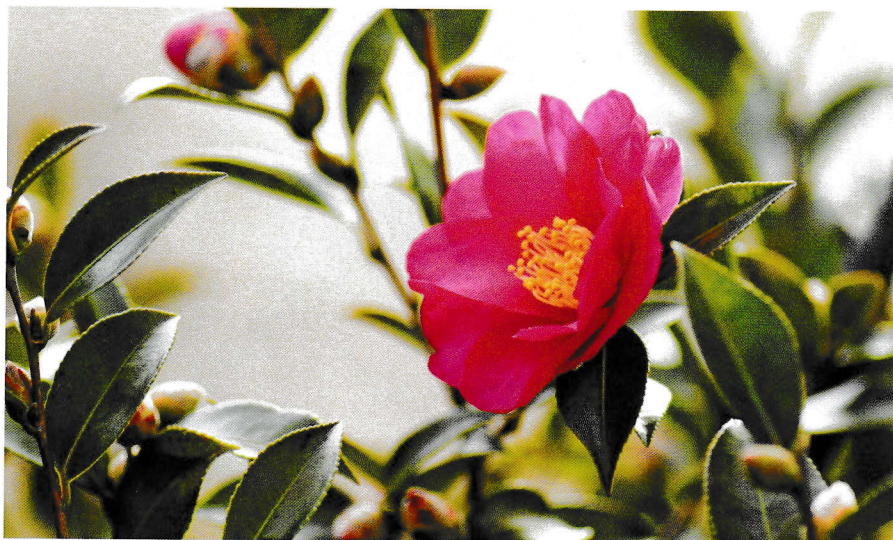
雲水姿で新幹線にのり、駅から駅へ、そして本山までの道中、見送つてくださった方々や縁のある方々のお顔や言葉をかみしめて、そして山門の前に立ったことと思います。修行は自らの己事究明であり安心立命を第一義とします。坐禅三昧の日々、三時半の起床、只管打坐の日々、無心の作務により、自らが見えてきます。

三月二十四日に正式に修行の仲間に入れたいただく「入堂の拝」をさせて頂いたと一報が入りました。今上山一ヶ月半となり、肉体的にはもつとも厳しい時を迎えていることと思います。それでも得ること難い修行仲間の中で、一つ一つ必死に覚えていることと思います。

この時代ではありますが、携帯電話もP Cもない世界ですので（禁止という意味です）、状況はこちらからは全くわかりません。しばらく音信不通の状態です。

善い修行期間、雲水としての大切な一時を大事にして欲しいと願っています。皆様方からの励ましの言葉に心から感謝申し上げます。

住職 拝記



おねがい

住職が法務で不在となることも多くありますので、ご来山前にお電話等で必ず確認をお願いいたします。

電話 〇二四一五四八一二四〇
FAX 右同

現在四月の下旬ですが、弟子秀憲は日々睡魔と戦っていることと思います。また、私の経験上、肉体も頭も自分の極限まで使うことになっているので、毎日甘い物が欲しくてしかならない状態であると思います。甘い物が嫌いな人でも、激しく甘い物を欲するようになります。ぼたもち、まんじゅう、ようかん、チョコレートが食べたくて、頭の中がいつぱいになります。およそ半年は、睡魔と甘い物が欲しいということが、現実の日々の戦いです。

肉体もギリギリまで追いこまれます。一般社会でいうところの休日がないので疲労がたまっています。それでも、仕事ではなく自分の修行ですから乗りこえていかなければなりません。頑張つてほしいと願っています。

永平寺で雲水修行ができることは、本当に幸せなことです。ちなみに、「永平寺」が、本年NHKBS1で四月二十四日、同じく再度の放送で四月三十日に放映されました。何度も再放送があらうかと思しますので、お知らせ致します。また、永平寺への団体参拝もそのうち企画いたします。

住職 再拝